

社会福祉法人ゆうのゆう 事業報告 2007

2007年4月1日～2008年3月31日



【目次】

- ・総括
- ・デーセンターモモの家
- ・デーセンター機関車
- ・デーセンター夢飛行
- ・絵画、車イスダンス
- ・リサイクルショップ、還元金
- ・一泊旅行
- ・後援会
- ・医療的ケア
- ・スタッフ体制、決算

総 括

2008年1月、夢飛行・モモの家・機関車の3施設は、「小規模通所授産施設」から「指定生活介護施設」へと移行しました。苦しい運営を余儀なくされた補助金頼りの「授産施設」と比較すると、介護給付費による運営は順調な滑り出しと言えます。社会的には批判の多い新体系ですが、利用者数、スタッフ数ともに増加するなか、利用者への支援体制を徐々に充実させ、安定した運営に努めます。

「デーセンターモモの家」（福島区）は来年度の移転を予定しています。建物の老朽化が著しくかなり手狭となったため、近隣地区での移転先を探します。助成金の受給とあわせ、確かな資金計画を立て、スムーズな移転を行います。

「デーセンター機関車」（都島区）は「モモの家」の従たる事業所となりました。利用者数が20人に満たないためです。ただスペース上も課題があり、移転によって支援環境の改善を図る可能性もあります。

「デーセンター夢飛行」（西成区）は約30人の利用者が登録。送迎や入浴などさまざまな課題が顕著にあらわれます。ニーズに応えるためにはスタッフの体制、運営体制などの課題を乗り越える必要があり、このことが重症心身障害者の地域生活を支える活動の将来を占うことにもなります。

重症心身障害者への支援には、ゆったりとした時間と感情が必要です。また一方で研ぎ澄まされた感性と創造力が求められます。あわただしく過ぎ去る日々のなかで、重症心身障害者の生きる時間をしっかりと私たちスタッフが感じるためには様々な条件が必要です。

劣悪と称される福祉労働環境の改善も必要でしょう。ハード面の充実も必要でしょう。しかし、自らの感性を研ぎ澄ますことへの努力を怠るならば、“猫に小判”となりかねません。最終的には自らが立つ地平を自ら切り開くという姿勢が、スタッフ個人、そして何より組織自体が求められている昨今という気がしてなりません。

2008年6月20日

社会福祉法人ゆうのゆう
代表理事 小林美穂

デーセンターモモの家

◇活動状況…

地域との交流に努めた。ジャスコ（野田阪神店）には、毎月1回のイエローシートキャンペーン時に利用者とともに出かけ PR 活動を行った。また地域で開催されるフリーマーケット等に積極的に出店し、売り上げ増に努力した。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見、フラワーフェスタ参加
5月	一泊旅行（長島温泉）、
6月	あいあいまつり参加、プール
7月	一泊旅行（城崎温泉）、プール
8月	プール
9月	グループ外出、プール
10月	一泊旅行（東京）、グループ外出
11月	一泊旅行（東京）、グループ外出、ゲーム大会
12月	イルミネーション外出、クリスマス会、忘年会
1月	新年会、新成人お祝いの会
2月	スポーツ大会
3月	車イスダンス発表会

デーセンター機関車

◇活動状況…

新しい利用者を迎えた。新しい環境に慣れていただくため、少ない利用者ではあるものの、外出の機会をできるだけ多く設け、施設内外の交流にも努めた。また地域の催しにも積極的に参加した。

重度の障害を持った利用者にあっても、特に微妙な体調の変化に配慮と注意が必要な利用者に関しては、体調を維持すると同時にどのように活動に参加し、行動範囲を広げるかについて思考をめぐらした。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見
5月	一泊旅行（長島温泉）
6月	
7月	一泊旅行（城崎温泉）、プール

8月	花火大会
9月	舞洲プール
10月	一泊旅行（東京）、オカリナコンサート
11月	一泊旅行（東京）、グループ外出（梅小路・京都）
12月	イルミネーション外出、クリスマス会、グループ外出（ハーベストの丘・堺）
1月	十日戎詣
2月	スポーツ大会、節分豆まき
3月	車イスダンス発表会、施設外出（花鳥園・京都）

デーセンター夢飛行

◇活動状況…

天気のよい日にはできるだけ外出に努めた。また、年間行事として誕生日会、ワーキングホリデースタッフによる韓国語講座を月1回実施し、固定化を図った。

またインターネットのオークションも利用するなど昨年以上にリサイクルショップの運営に力を注ぎ、売り上げ増を達成した。

◇行事…

4月	入所式（西成区民センター）、お花見
5月	一泊旅行（長島温泉）、
6月	グループ外出
7月	一泊旅行（城崎温泉）、長居プール
8月	長居プール
9月	グループ外出、長居プール
10月	一泊旅行（東京）、グループ外出
11月	一泊旅行（東京）、グループ外出
12月	イルミネーション外出、クリスマス会、忘年会、グループ外出
1月	新年会、新成人お祝いの会、グループ外出
2月	スポーツ大会、グループ外出
3月	車イスダンス発表会、センバツ高校野球観戦

絵画

民生・児童委員大会の記念品としての納入も恒例となり、順調に制作活動を行った。地域のフリーマーケットでの販売のほか、ナイスバザール（長崎県）にスタッフを派遣し、全国的な授産施設作品の動向などを探った。

一方、制作に向けた利用者、スタッフの意識をマンネリ化しないよう維持することにも努力が必要となっており、今後の課題としたい。

車イスダンス

講師を招いて月 1 回の車イスダンスも恒例化してきた。3 月の発表会は、青少年会館（西成区）を借り切り、父母らも招いて開催。華やかなドレスなどの衣装をつけての晴れ舞台で、利用者、スタッフともに緊張の面持ちであったが、最後には喝采をあげる演技を見せた。来年度も継続する方針。

リサイクルショップ・利用者還元金

例年になく各施設ともに売り上げ増に力を入れた。また「実習生を指導するのはスタッフではなく、利用者である」との考えから、実習生の受け入れ費用を利用者還元金に含めており、今年度は大阪歯科大の実習生を受け入れるなどしたため、売上増につながった。

【売上】

デーセンター夢飛行	395113円
デーセンター機関車	240649円
デーセンターモモの家	125257円
合計	761019円

1 人当たり 12683 円の還元金で過去最高額。4 月の入所式での発表は大いに盛り上がった。

一泊旅行

行き先 8 ケ所の案をあげ、アンケートをとったところ、東京旅行が最も多かった。東京旅行は新幹線での移動もあるため、多人数での行動には困難が生じるため、2 班に分かれて実施した。

東京ディズニーランドでは、「乗り物が停止したときに自力で避難ができるか

どうか」という質問があり、かなりの乗り物をあきらめざるをえないことがあった。一方で、現実には自力避難ができないにも関わらず、「できます」と返答すれば乗車可能という場面もあり、質問が不愉快に感じられるケースが多々あった。

長島温泉（５月） … 利用者 13 人 父母 4 人
城崎温泉（７月） … 利用者 18 人 父母 5 人
東京・ディズニーランド（10 月） … 利用者 15 人 父母 8 人
東京・ディズニーランド（11 月） … 利用者 12 人 父母 7 人

後援会

のべ会員数は 1000 人を超えていますが、死亡、退会もあり、最近の会員数は伸び悩んでいる。今後、「モモの家」の移転、改修が控えており、これらの費用をねん出するためにも後援会員の勧誘を関係者、スタッフに呼びかける必要がある。

しかし、友人・知人等に呼びかけ、後援会員を勧誘、獲得できる関係者、スタッフはごく一部であり、後援会員の獲得が活動を支える重要な柱の一つであることをどのように皆に浸透させるのかが課題となろう。

医療的ケア

重度の障害を持った方々への支援の一部には、医療的ケアが含まれる。通所者に限っても、加齢により医療的ケアは増加傾向にある。しかし、これらを生活支援の一環として行うために、スタッフが医療的知識を増やせば増やすほど、「生活支援」から「医療技術支援」へと変貌する可能性が増える。このことの重要性に気づくスタッフは意外なほど少ない。

ある利用者さんが食後、車いすから降りる座位の姿勢には関心が持てても、その利用者さんの食事する場所が年中同じ場所であることに気づくことは難しいという現状。“木”の支援を行ういわゆる“スペシャリスト”的関心に比べ、“森”の支援を行う“ゼネラリスト”的関心が低い傾向を改善しなければ、ミニ病院化は避けられない。

スタッフ体制

2008 年 1 月より指定生活介護になったことからスタッフ体制が大幅に変更となった。看護師の配置が必須となったため、人材派遣会社との契約を行った。また利用者との比は、「1.7：1」と介護給付費上ではもっとも高い配置を行った。（別紙参照）

決算

小規模通所授産施設（４月～１２月）と生活介護施設（１月～３月）と二つの施設形態が同居した年度であった。１～３月からの介護給付費がこれまでの１年間の補助金額に相当するほど。旧法その他施設が新体系に移行すると運営が厳しいといわれるなか、私たちにとっては、これまでの小規模通所授産施設での運営がいかに困難であったか改めて知ることとなった。

以上のように、生活介護施設となって運営は順調に推移すると想定しており、今後は借入金の返済に努めるとともに、来年度に予定されるモモの移転に向け、助成金の申請、後援会員の新たな獲得を目標に置き、引き続き順調な運営を続けていく方針である。（決算書は別紙参照）